

積乱雲をよく見てみよう！

【第28回】積乱雲をよく見てみよう！

気象の杜をご覧いただきありがとうございます。

暑さ厳しい夏本番、空を見てもみますとモクモクとした雲「積雲」が流れています。その中でも青空にひときわ目立って高くそびえ立つ「積乱雲」を見たことがあると思いますが、その雲のてっぺんをしばらく眺めてみたことはありますか？ 空へ空へとどんどん高くなり成長していく姿を見ることができるのもこの季節ならではのです。積乱雲の中には、しっかりと成長して雷を鳴らすものと、途中で成長を終えててっぺんが崩れてしまうものがあるのをご存じでしょうか。気象隊は、これら一つひとつの雲の動向を見逃すことがないようによく観察して、航空自衛隊のパイロットの安全な飛行の助けとなる天気予報をすることを心がけています。技術が発展し、今ではインターネットで手軽に雨雲の動きを確認することができますが、ここで皆様に観天望気の重要性について私が体感したエピソードを紹介したいと思います。（観天望気については第24回を参照）



気象予報士として駆け出しの頃「予報官の学校（詳細は第26回を参照）」で、気象の観測の授業を受けていた日でした。暑い昼下がりの夏の空を見上げた際に、空に向かってグングン成長していく大きな積乱雲をいくつも見ました。それまでの私は積乱雲を気にして見たことがなかったため、「あんなふうに大きくなっていくのか」程度にしか思っていないませんでした。その中で、こちらに向かって近づいてくるものがありました。すぐ傍にいた先輩気象予報士が「あれは雷が鳴るな」と呟き、教官も学生たちに屋内に入るよう伝えました。その数十分後には、真っ青に晴れていた青空はどんよりとした灰色に変わり、ゴロゴロという音が鳴りだしたかと思うと、バケツをひっくり返したような雨が地面に叩きつけられていました。雲は低くどこまでも広がり、遠くまで見渡すことができた景色は強い雨でよく見えなくなっていました。「こんな状態で航空機を着陸させるのは危険だろ？ だから危険はパイロットに早く教えないとな」と教官に教えられました。雷が鳴る時の天気の変化は急激であると肌で感じたとともに、どんな変化も見逃さないようにしなければと、観天望気の重要性を知った出来事であり、気象予報士10年目を迎えようとする今でも私の教訓です。

雷の予報の際には、目視によってこれらの積乱雲の成長の動向を観測することが重要です。なぜなら、積乱雲はほんの5分、10分で一気に成長してしまうからです。航空機が安全に基地へ帰ってくることができるよう余裕をもって予報を発表するためにも、気象隊員はパソコンに映る衛星画像やレーダーエコーを監視するだけではなく、観天望気で天気の急変を察知しています。

皆さんも時には夏の空に浮かぶ雲の変化を楽しんではいかがでしょうか。なお、積乱雲を観測する時は雷雨によって天気が急変しますので、屋内等の安全な場所で観賞することをおすすめします。